



## 平成23年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成23年2月2日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 よみうりランド  
コード番号 9671 URL <http://www.yomiuriland.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 関根 達雄

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経理部担当 (氏名) 小林 利光

四半期報告書提出予定日 平成23年2月10日

TEL 044-966-1134

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成23年3月期第3四半期の連結業績(平成22年4月1日～平成22年12月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第3四半期	12,087	9.8	1,981	10.6	2,130	14.1	1,274	22.6
22年3月期第3四半期	11,005	1.3	1,791	6.7	1,867	3.8	1,039	3.2

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
23年3月期第3四半期	15.94	—
22年3月期第3四半期	13.00	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
23年3月期第3四半期	54,435	18,389	33.8	229.99
22年3月期	54,408	17,557	32.3	219.56

(参考) 自己資本 23年3月期第3四半期 18,389百万円 22年3月期 17,557百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
22年3月期	—	2.50	—	2.50	5.00
23年3月期	—	2.50	—	—	—
23年3月期 (予想)	—	—	—	2.50	5.00

(注) 当四半期における配当予想の修正有無 無

### 3. 平成23年3月期の連結業績予想(平成22年4月1日～平成23年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	15,050	3.5	1,741	△15.4	1,809	△14.5	1,059	△8.1	13.24

(注) 当四半期における業績予想の修正有無 無

4. その他（詳細は、【添付資料】P.3「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動 無

新規 一社（社名 ）、除外 一社（社名 ）

（注）当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用 無

（注）簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更 有

② ①以外の変更 無

（注）「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む） 23年3月期3Q 83,522,024株 22年3月期 83,522,024株

② 期末自己株式数 23年3月期3Q 3,565,652株 22年3月期 3,553,329株

③ 期中平均株式数（四半期累計） 23年3月期3Q 79,965,367株 22年3月期3Q 79,974,086株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は経済情勢や天候等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の経済対策や新興国市場の需要拡大などにより一部で景気回復の兆しが見られるものの、依然として雇用情勢や所得環境が低迷していることに加え、長引く円高・株安傾向など先行き不透明な状況が続いております。

当社グループの関連する業界におきましても、消費者の節約・低価格志向などにより個人消費の回復には至っておらず、依然厳しい状況で推移しております。

このような状況の下、当社グループでは、総合レジャー事業、不動産事業、サポートサービス事業の3事業において、積極的な事業展開を図り、収益の確保に努めました。

公営競技部門の川崎競馬は、前年同様47日開催され、11月までの42日間はナイトで実施されました。また、昨年に引き続き12月の開催はセミナイトで実施され、重賞競走「全日本2歳優駿」が行われました。船橋競馬は、前年同期比1日減の39日開催されました。11月には地方競馬の祭典「JBC競走」が開催され、投票券総売上高は、船橋競馬の1レース及び一日の売上記録を更新しました。船橋オートレースは、前年同期比4日減の53日開催され、10月にはG I 船橋オート祭が行われました。なお、秋には走路改修工事を実施し、施設整備に努めました。競輪場外車券売場「サテライト船橋」は、前年同期比6日増の273日実施されました。12月にはサテライト船橋開設2周年記念イベントを開催し、好評を博しました。

なお、通期の開催日数につきましては、川崎競馬は前年比1日減、船橋競馬は同数、船橋オートレースは5日減の予定です。

ゴルフ部門の東京よみうりカントリークラブは、12月に開催された「ゴルフ日本シリーズ」Tカップが人気選手の賞金王争いなどにより、前年よりも多くの来場者で賑わいました。通常営業につきましては、積極的な外部営業により多くのコンペを獲得したことなどにより、前年同期並みの入場者を確保しました。よみうりゴルフ倶楽部は、各種コンペ企画の実施や外部営業活動を積極的に行い顧客獲得に努めたものの、悪天候によるキャンセルが多発したことなどにより、入場者は減少しました。なお、12月には初の試みとなる遊園地とのイベント連動を実施し、クラブハウスレストランにおいて特別メニューによるディナーを提供し好評を博しました。静岡よみうりカントリークラブは、「秋の味覚収穫祭コンペ」や「打ち納めコンペ」などの自主コンペを開催し多くの参加者を集めました。夏の影響が尾を引いたことなどにより、入場者は減少しました。千葉よみうりカントリークラブは、10月に東京よみうりカントリークラブの18番ホールを再現した「新18番ホール」がオープンし、多くのメディアで紹介されました。これに合わせて、「新18番完成記念チャレンジ」を開催しました。その他、来場者へのスクラッチカード配布などのイベントが好評だったことなどにより、前年同期並みの入場者を確保しました。

遊園地部門の遊園地では、花見シーズンのナイト営業「よるランド」や9月に実施された「リアル脱出ゲーム」に加え、11月からは世界的照明デザイナー石井幹子氏監修のもと、関東最大級となる100万球のイルミネーションイベント「ジュエルミネーション」を開催するなど、夜の遊園地を有効活用した結果、入場者は大幅に増加しました。プールWA Iは、様々なイベント実施が功を奏したことに加え、期間を通して猛暑と天候に支えられたこともあり、開設以来最高となる入場者を記録しました。

温浴施設「丘の湯」は、12月に「野沢温泉スキー場まつり」を実施し、岩風呂にて野沢温泉を再現したほか、野沢温泉から輸送した雪を使って「雪遊び広場」を設置して、好評を博しました。また、遊園地の夜間イベントと連携し集客を図ったことなどにより、前年同期並みの入場者を確保しました。平成21年11月に取得した温浴施設「季乃彩」は、11月にオープン3

周年記念イベントを実施したほか、期間限定の朝風呂営業など顧客サービスに努めた結果、入場者は順調に推移しました。ゴルフガーデン（練習場）は、「スタンプ2倍の日」や「打ち放題イベント」が好調だったものの、夏の猛暑やスクール生の減少などが影響し、入場者は減少しました。

以上の結果、総合レジャー事業の売上高は、105億5千2百万円となりました。

また、不動産事業の売上高は、販売用宅地の分譲が減少したことなどにより10億5千6百万円、サポートサービス事業の売上高は、外部ゴルフ場のコースメンテナンス業務を新たに獲得したことなどにより15億2千2百万円となりました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は120億8千7百万円（前年同期比9.8%増）、営業利益は19億8千1百万円（同10.6%増）、経常利益は、受取配当金が増加したことなどにより21億3千万円（同14.1%増）、四半期純利益は12億7千4百万円（同22.6%増）となりました。

## （2）連結財政状態に関する定性的情報

当第3四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末に比べ2千7百万円増加し、544億3千5百万円となりました。これは、現金及び預金が9億8千7百万円増加したものの、減価償却等に伴い有形固定資産が7億5千5百万円減少したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末に比べ8億4百万円減少し、360億4千6百万円となりました。これは、返済に伴い長期借入金が8億2千5百万円減少したことが主な要因であります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末に比べ8億3千1百万円増加し、183億8千9百万円となりました。これは、四半期純利益が12億7千4百万円であったものの、期末及び中間配当を3億9千9百万円行ったことが主な要因であります。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末の32.3%から33.8%となりました。

## （3）連結業績予想に関する定性的情報

通期の業績につきましては、整備費の一部を第4四半期に繰り越していることや、今後の景気動向や天候等の不確定要因が多いことから、平成22年5月12日発表の数値から変更はございません。

## 2. その他の情報

### （1）重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

### （2）簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

該当事項はありません。

### （3）会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

（資産除去債務に関する会計基準等の適用）

第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」（企業会計基準第18号 平成20年3月31日）及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日）を適用しております。

これにより、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益はそれぞれ9,708千円、税金

等調整前四半期純利益は 97,660 千円減少しております。また、当会計基準等の適用開始による資産除去債務の変動額は 187,945 千円であります。

(四半期連結損益計算書関係)

「連結財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第 22 号 平成 20 年 12 月 26 日)に基づく財務諸表等規則等の一部を改正する内閣府令(平成 21 年 3 月 24 日 内閣府令第 5 号)の適用に伴い、当第 3 四半期連結累計期間では、「少数株主損益調整前四半期純利益」の科目を表示しております。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,948,499	5,960,742
受取手形及び売掛金	847,640	965,599
たな卸資産	332,823	298,430
繰延税金資産	121,866	188,113
その他	140,823	111,559
貸倒引当金	△99	△638
流動資産合計	8,391,554	7,523,806
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,653,075	19,382,082
土地	17,866,357	17,752,354
建設仮勘定	44,560	58,680
その他(純額)	850,129	976,421
有形固定資産合計	37,414,121	38,169,539
無形固定資産		
その他	85,167	89,837
無形固定資産合計	85,167	89,837
投資その他の資産		
投資有価証券	7,765,710	7,823,137
繰延税金資産	574,503	542,371
その他	204,633	259,502
投資その他の資産合計	8,544,847	8,625,011
固定資産合計	46,044,137	46,884,387
資産合計	54,435,691	54,408,194
<b>負債の部</b>		
流動負債		
営業未払金	324,935	409,150
短期借入金	3,100,000	3,100,000
1年内返済予定の長期借入金	1,187,200	1,302,900
未払法人税等	436,227	402,129
賞与引当金	29,491	120,337
その他	1,658,390	1,281,677
流動負債合計	6,736,245	6,616,194
固定負債		
長期借入金	3,667,300	4,493,000
繰延税金負債	1,056,940	1,120,338
退職給付引当金	616,781	579,791
役員退職慰労引当金	103,199	125,804
長期預り金	23,568,115	23,807,441
その他	297,923	108,041
固定負債合計	29,310,261	30,234,417
負債合計	36,046,506	36,850,611

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成22年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,053,030	6,053,030
資本剰余金	4,730,627	4,730,676
利益剰余金	7,720,019	6,844,857
自己株式	△1,313,165	△1,309,693
株主資本合計	17,190,512	16,318,871
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,198,673	1,238,711
評価・換算差額等合計	1,198,673	1,238,711
純資産合計	18,389,185	17,557,582
負債純資産合計	54,435,691	54,408,194



(2) 四半期連結損益計算書  
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)
売上高	11,005,890	12,087,056
売上原価	8,071,122	8,892,364
売上総利益	2,934,768	3,194,691
販売費及び一般管理費	1,143,188	1,212,917
営業利益	1,791,580	1,981,773
営業外収益		
受取利息	1,951	1,137
受取配当金	114,495	173,703
その他	32,846	51,265
営業外収益合計	149,293	226,106
営業外費用		
支払利息	73,383	77,160
その他	375	67
営業外費用合計	73,758	77,227
経常利益	1,867,115	2,130,652
特別利益		
固定資産売却益	243	2,007
子会社清算益	5,434	—
受取補償金	—	89,180
特別利益合計	5,677	91,187
特別損失		
固定資産除却損	171,666	109,463
投資有価証券評価損	245	—
災害による損失	477	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	—	87,952
特別損失合計	172,389	197,416
税金等調整前四半期純利益	1,700,403	2,024,423
法人税、住民税及び事業税	567,351	757,523
法人税等調整額	93,068	△8,097
法人税等合計	660,419	749,426
少数株主損益調整前四半期純利益	—	1,274,997
四半期純利益	1,039,984	1,274,997

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間（自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日）

	総合レジャー 事業 (千円)	不動産事業 (千円)	建設事業 (千円)	計 (千円)	消去 又は全社 (千円)	連結 (千円)
売上高						
(1) 外部顧客に 対する売上高	9,513,026	1,123,859	369,005	11,005,890	—	11,005,890
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,001	1,350	734,472	744,823	(744,823)	—
計	9,522,027	1,125,209	1,103,477	11,750,713	(744,823)	11,005,890
営業利益	2,087,589	670,925	51,135	2,809,651	(1,018,070)	1,791,580

(注) 1 事業区分は日本標準産業分類を参考にし、各事業の営業内容の類似性により区分しております。

2 各事業の主な内容

- (1) 総合レジャー事業 競技場、ゴルフ場、遊園地等の運営
- (2) 不動産事業 不動産の売買、賃貸
- (3) 建設事業 建設業

【セグメント情報】

(追加情報)

第1四半期連結会計期間より「セグメント情報等の開示に関する会計基準」（企業会計基準第17号 平成21年3月27日）及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日）を適用しております。

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社は、サービス別に事業セグメントを識別しており、「総合レジャー事業」を中心に、本社部門が管理している「不動産事業」、連結子会社が展開している「サポートサービス事業」の3つを報告セグメントとしております。

「総合レジャー事業」は、競馬場等の公営競技場、ゴルフ場及び遊園地等の運営・管理を行っております。「不動産事業」は不動産の売買、賃貸等を行っております。「サポートサービス事業」は建設業、ゴルフ場管理及びビル管理等を行っております。

## 2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	総合レジャー 事業	不動産事業	サポート サービス事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	10,542,056	1,055,572	489,426	12,087,056	—	12,087,056
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,961	1,350	1,033,160	1,044,472	△1,044,472	—
計	10,552,018	1,056,922	1,522,587	13,131,528	△1,044,472	12,087,056
セグメント利益	2,387,914	601,290	98,048	3,087,253	△1,105,480	1,981,773

(注) 1 セグメント利益の調整額△1,105,480千円には、セグメント間取引消去967千円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△1,106,447千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 3 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

## 4 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

## (5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。